

地域で支える子どもの育成 ～公民館を活用した子ども支援～

青少年健全育成領域 新 開 英 毅

1. はじめに

近年、国際化・情報化等社会の変動に伴い子どもを巡る状況も変化した。子どもの学力・体力の低下、規範意識の希薄化等が生じ平成 18 年に教育基本法が改正された。それによると学校・家庭の果たす役割と同時に地域社会の果たす役割は極めて大きいとされている。今、徳島県のような地方都市では、人口減や超高齢化といった構造的問題に直面しており次第に若者がいなくなっている。将来の夢や希望を抱き故郷でチャレンジしたいと願う若者がそうした危機を救う。そこで現代の青少年の特徴や問題点を把握し地域社会において地域住民が子どもを育てるという視点に立ち公民館の活用を試みることにした。

2. 子ども居場所づくり

現在の子どものには、安全に遊んだり安心して生活のできる環境が少ない。10 年程前に起きた池田小学校の児童殺害事件に端を発した一連の児童重大事件により、子どもを地域で見守り育てようという機運が一気に盛り上がった。文科省は地域の教育力の低下を受け心豊かで逞しい子どもたちを社会全体で育むために「地域子ども教室推進事業」を実施した。具体的には学校や公民館を活用した「子ども居場所づくり」である。この事業に早くから取り組んでいる事例を紹介する。

3. 半田公民館のキッズカルチャーすくすく

10 年程前半田町教育委員会が立ち上げた事業である。N 氏が絵画、和太鼓、俳句を幼児・児童を対象に毎週土曜日に指導している。人、物といった地域の資源を巧く生かしており、今では、地域住民や児童とその保護者が一体となって運営している。

4. 公民館における子ども支援への挑戦

ア 徳島市における公民館の状況

徳島市の公民館は、青少年及び成人に対して行われ教育活動の拠点施設である。市の公民館条例に基づき 30 館を設置しており大半がコミセンと共有している。事業内容は、成人式、人権研修、学遊塾、ふれあい教室等である。

イ 渭東公民館のキッズカルチャー

平成 26 年 6 月より渭東公民館においてキッズカルチャー（囲碁・算数・俳句）を開く。算数と囲碁は毎週木曜日（第二・第三・第四）の放課後に、俳句は夏休みに実施する。福島小学校の児童が対象で、算数は授業が分かりにくい子、俳句は自分の感動したことを短い詩に、囲碁は頭脳ゲームを楽しみながら直観力や判断力を身に付けている。

5. 課題と今後の取り組み

渭東公民館の校区内では少子化が進んでおりキッズカルチャーの継続には、児童の減少に伴う子どもの確保、公民館や学校の協力と子どもの熱意が必要である。公民館は、住民と子どもの出会いの場である。子ども達が公民館を今以上に多く利用出来る環境づくりを検討したい。平成 27 年度に西富田公民館で子ども囲碁や俳句を予定しておりこうした活動の輪をさらに広げられればと思う。